（文献紹介）

露・英・日　図書館関係用語集 [第3版]

佐野幸平編　仙台市　宮城県大学図書館協会　2003年8月 vii, 212p.

Русско－англо－японский словарь библиотечных терминов (Russian-English-Japanese glossary), ed. by Kohei Sano.

宮地　幹夫
（特別会員）

本書の構成は、露・英・日対訳用語集（p.1 ～ 106）、それに露語用語に対する英訳語索引（p.109 ～ 153）、日本語索引（p.157 ～ 196）、最後に露語の略語（p.199 ～ 212）の4部からなる。

本書は著者が東北大学経済学部図書室に在職中の36年余の間に図書館関係の用語をカードにメモしたものをベースにして作成された文字どおりの労作である。私事で恐縮であるが、約10年前に第1版を著者から送られ、手にした時の驚きは今でも忘れることは出来ない。

本書に挿入されていた「用語集」編纂の経緯を辿るパンフレットによると、第2版で一般的な用語（非専門用語）約1,100語を削除し、専門用語140語を加え、第3版では結果的に露語用語3,636語、日本語用語2,920語、そして英語用語3,430語、露語略語約500語が収録されたとある。用語の取捨選択と3言語併記の難しいことは、日本の図書館界及び図書館学が、米・英のそれに負うところが大きいだけに容易な作業ではなかったに違いない。それだけに、露語図書を購入している図書館と図書館員にとって、本書が果たす役割は、間違いなく大きい。

最後に露語に不得手で、しかもロシアの図書館界の事情に疎い私の非礼をお許しいただくとして、偶々疑問を感じた収録語に関連するものについて掲げておこう。

まず、"Прикладная библиогрфия /applied

bibliography/ 応用書誌学 "。「書誌学」には扱っている分野によって幾つかの専門語があるけれども、「応用書誌学」は私には聞きなれた用語とは思えないので、或いはロシアの図書館・書誌学独特の用語なのだろうか。また近年、図書館界でも電算化が一般的になって、"OPAC" 或いは "MARC" という用語は極く一般的に使用されているが、本書ではこれらに相当する用語はないようである。ただ前述したように、私の不勉強による誤りであるとしたら、ただただ恥入るばかりである。いずれにしても、本書の価値を下げるものでは決してなく、著者の多年に亙る努力の積み重ねの成果に対し、心からの敬意を表したい。